

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会
第8回 議事録(要旨)

日時：平成30年2月15日(木)

場所：自然学総合研究所、各務原市内

参加者一覧

出席者	安藤 辰夫 大塚 之稔 西條 好迪	(一財)自然学総合研究所客員研究員 日本野鳥の会岐阜代表 (一財)自然学総合研究所理事長
事務局	川瀬 重徳 籠橋 敦志 他2名	恵那土木事務所副所長兼道路建設課長 恵那土木事務所道路建設課主任技師 株式会社テイコク

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会 議事録(要旨)

議題	発言者	番号	意見の主旨	当日の回答
1. これまでの経緯について				
	検討会委員 一同	1	これまでの検討会の経緯を再確認した。	—
2. H29繁殖期の調査結果について				
	事務局		第7回検討会以降の調査で新たに得られた情報を報告した。	—
	検討会委員	2	岩屋堂地区のオオタカは、平成29年5月、6月の調査結果からH26・28営巣木より離れて生息している可能性が高く、H26・H28営巣木の周辺環境の変化を鑑みると、再度同一地点で繁殖する可能性は低くなったのではないかと考えられる。今後はひょうたん池周辺やひょうたん池南側に位置するため池(旧ため池)の樹林地で繁殖する可能性がある。	—
	検討会委員	3	過去の他事例では、一度生息場所を移動したオオタカが数年後に再び戻ってきたことがあるため、岩屋堂地区について古巣を含め今後も繁殖状況の傾向を把握していくことが望まれる。	今後も継続して調査を実施する。
	検討会委員	4	岩屋堂のオオタカの移動後の繁殖地は、必ずしも営巣適地とは限らないのではないかと考えられる。	—
3. H30調査計画及び今後の中長期スケジュールについて				
	事務局		現時点で工事着手時期は未定であるため、暫くはオオタカの繁殖状況のみの確認を行っていく予定である。次年度調査では、H26・28営巣木より移動した可能性のある岩屋堂地区のオオタカについて繁殖地の把握に努めたい。	—
	検討会委員	5	オオタカの行動圏は概ね半径1.5kmであるため、ひょうたん池周辺や旧ため池までが確認できるよう調査範囲を広げ、人家やオオタカの飛翔場所を考慮して流動的に定点を設定するとよい。	いただいた意見を参考に調査を実施する。
	検討会委員	6	定点の設定にあたっては、オオタカの警戒を招かないよう注意して地点を選定すること。	いただいた意見を参考に調査を実施する。
	検討会委員 一同	7	平成30年繁殖期の調査計画(案)、今後の中長期スケジュールについて、事務局提案で了承する。	—